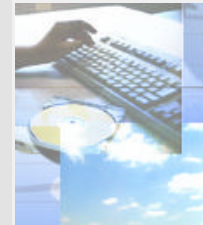


eラーニングで受講しやすい環境を提供



SE向けの製品教育にeラーニングを活用し、受講者増とコスト削減を実現

富士通株式会社

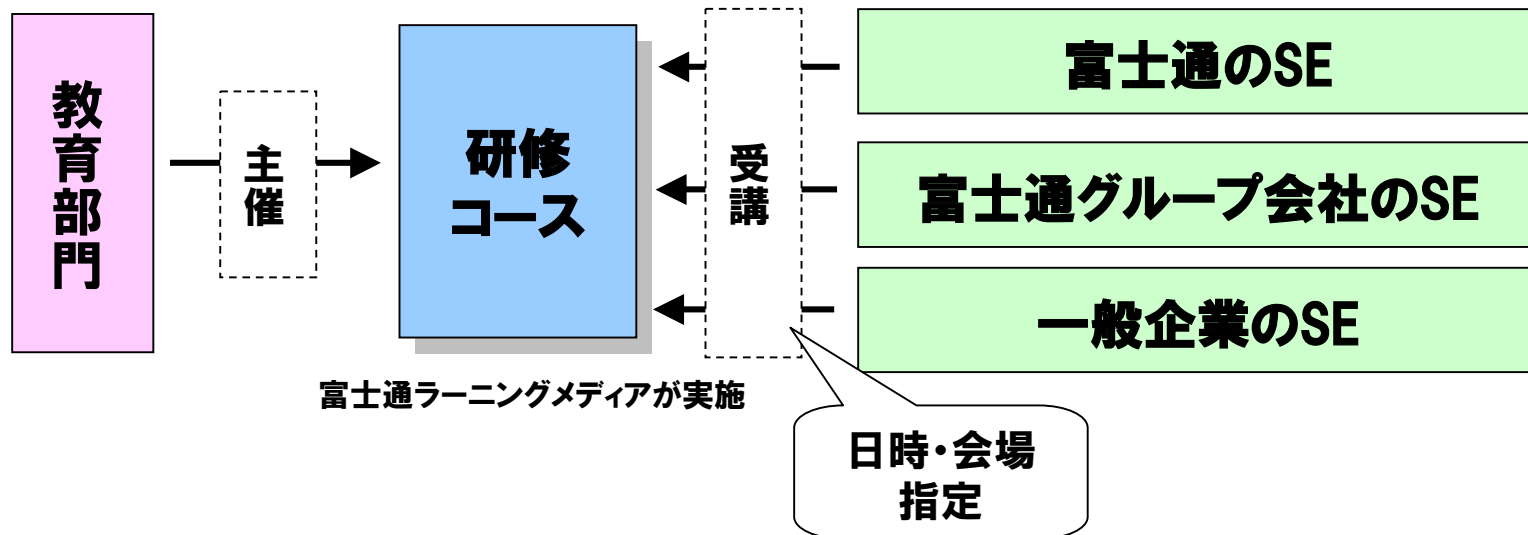
1. 富士通ミドルウェア製品のスキル習得



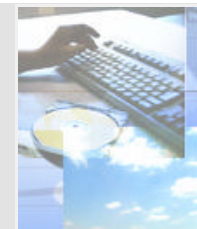
富士通 SE教育部門

社内SE・一般パートナーに、ミドルウェア製品のスキルを高めさせるミッションを持つ。

従来の研修方法: 集合研修で習得コースを実施



2. 従来の教育方法の問題点



受講者側

- 受講したくても忙しく受講できない人が多い。
- 参加するために出張費、宿泊費などのコストがかかる。
- 当日やむを得ず欠席する人もある。

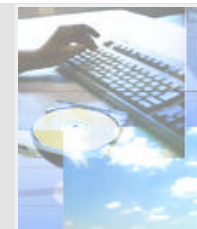
主催者側

- 講座開設の準備に時間がかかり、タイムリーな教育を提供できない。
- 富士通グループ以外での認知度が低く、参加者が少ない。
- 受講者の声を集めることが難しく、教育の分析ができない。



eラーニングの利用で解決

3. 資産を持たないeラーニングの運用



・2007年秋 eラーニングでの実施を検討開始

自部門でeラーニングサーバを持ち運用するのは無理

←早期の構築・運用開始ができない

←自部門でeラーニングサーバのメンテナンスを行うのが困難

eラーニングサーバは外部のサービスを利用することに

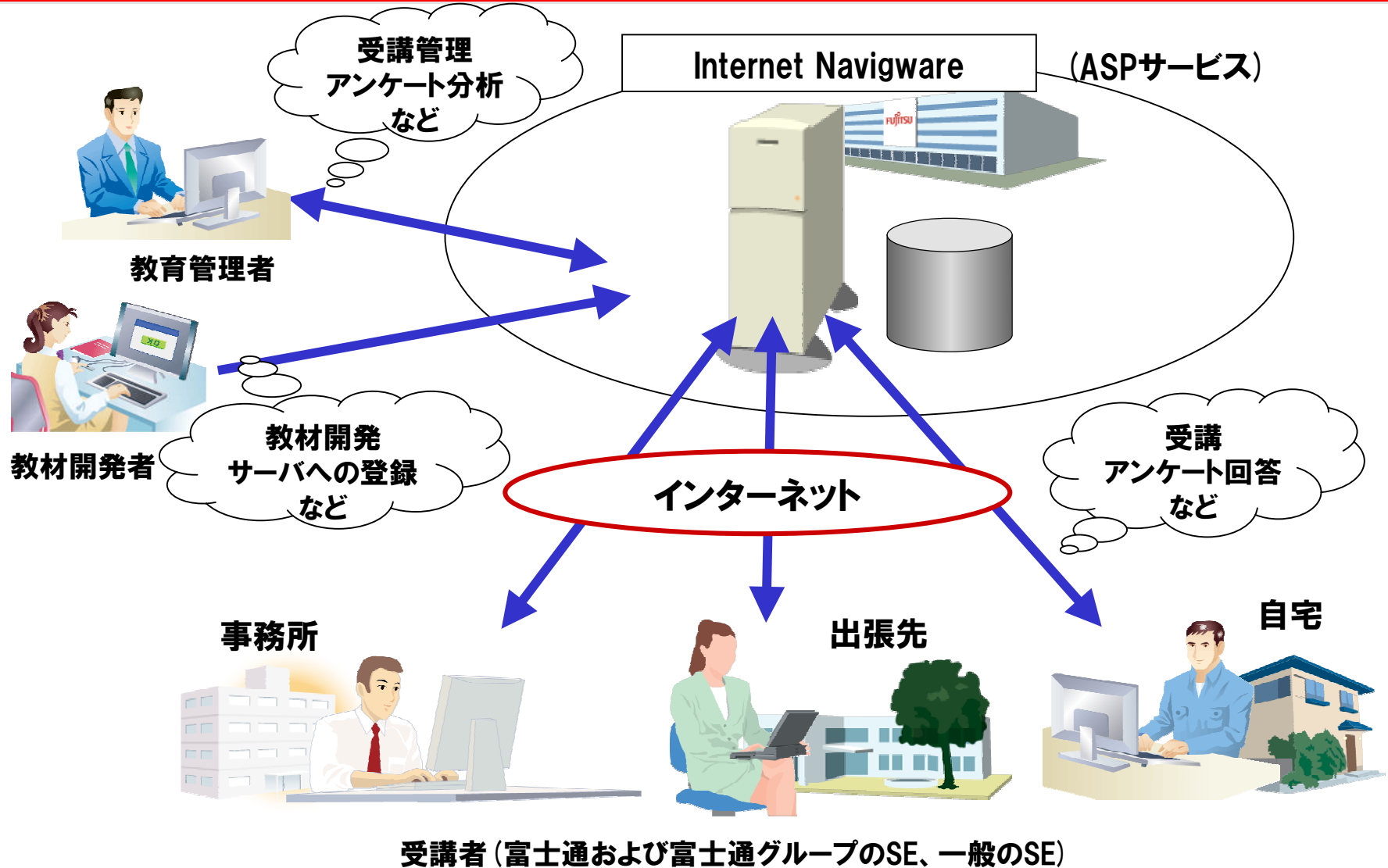
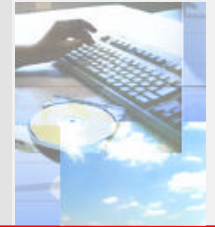
・2008年7月 社内テスト運用開始

コンテンツの開発

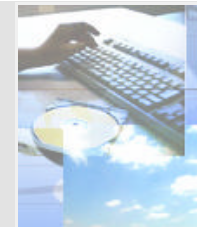
- ・原稿は専門部隊が作成
- ・コンテンツ化は外部（関係会社）へ
- ・Internet Navigware教材化は部内スタッフで

・2009年2月 eラーニングでの研修を開始

4. インターネットを利用したeラーニングの運用



5. eラーニング活用による効果 (1)



利用しやすさにより、受講者が大幅増

- 受講申込みが簡単。
- 旬なコースをタイムリーに受講できる。
- 自席から容易に受講できる。
- 繰り返し学習できる。

A社様の例

集合研修コースの受講 約**3件**／月



eラーニングコースの受講 約**8件**／月

- 受講にかかるコストが安く済む
- 忙しい技術者たちが、いつでもどこでも受講できる

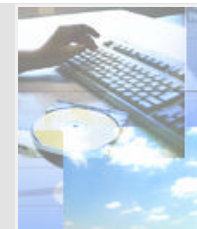
全受講者数の変化

集合教育受講者 21コース (**1320名**)



eラーニング受講者 16コース (**4614名**)

5. eラーニング活用による効果 (2)



育成コストを大幅削減。

1コース 受講者1名当たりのコスト

集合研修 約**16万円**



eラーニング 約**6千円**

一般の受講者が増加し、富士通のミドルウェアの認知度が上がった。

あるコースの受講者数

集合研修 富士通Gr 36人、一般 **12人**

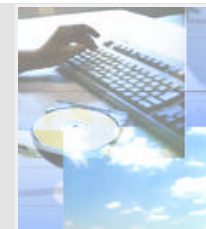


eラーニング 富士通Gr 165人、一般 **132人**

全体に
対する割合も
**25%から
44%に!**

- 教育をタイムリーに提供できるようになった。
- アンケートにより受講者の声を集め、分析結果を教育内容にフィードバックできるように。

6. 今後の取り組み



集合研修とeラーニングの棲み分け

すべての集合研修をeラーニングに置き換えることはできない。集合研修とeラーニングとの棲み分けをし、受講者へ浸透させることが必要。

基礎知識の習得⇒eラーニング

実習をメインにした教育⇒集合研修

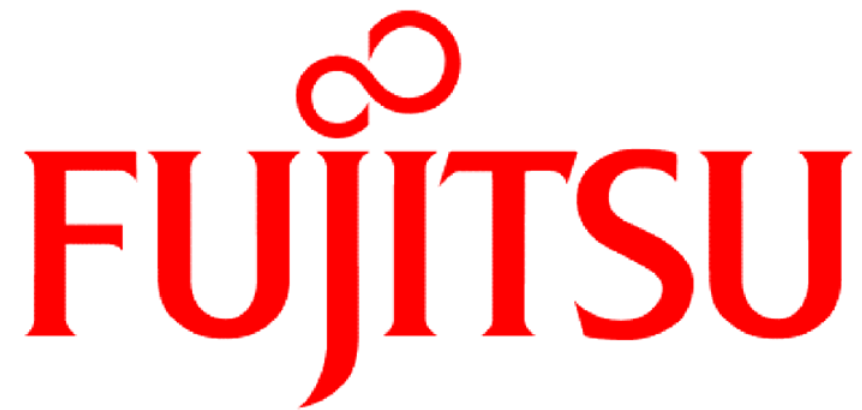
より受講しやすい環境の提供

ミドルウェア製品のスキル習得体系の中で、eラーニングのコースがどの位置付けにあり、受講すると次にどの教育項目（集合研修、自習教材、資格試験）に進めるかなどを明確にし、受講者が受講しやすい環境を提供する。



富士通のミドルウェア
eラーニングコースご案内サイト

<http://software.fujitsu.com/jp/middleware/training/elearning/>



FUJITSU

THE POSSIBILITIES ARE INFINITE